

ワークライフバランスの活動を知ってもらうため、この度『WLB 通信』を発行しました。  
活動や取組みを今後も発信していきたいと思えます。

## ～ 病院全体として『ノ一残業デー』実施の提案 ～

### 実施理由 (アンケート結果より)

- ① 否定的な意見もあったが、おおむね賛成意見が多かった。
- ② 他部門に影響される業務も多いことが分かったので、病院一斉に同じ日に『ノ一残業デー』にした方が効果的。
- ③ ノ一残業デー実施で定時に帰宅できる日があればモチベーションが上がる  
ことが期待できる。



### 実施方法

- ① 毎週水曜日を『ノ一残業デー』とする。  
水曜日が委員会も少なく、病院全体として比較的安定している。  
週の真ん中で仕事の調整がしやすい。
- ② どのような方法にするかは各部署工夫する。  
全員が定時に帰るのは難しいので、  
**半日または人数を決めて定時に帰る**  
など部署で実践しやすい  
方法を検討する。



WLB 推進ワークショップ報告会の活動が南日本新聞 (H26年12月23日発行) で紹介されました。

鹿児島県看護協会 (平川涼子会長) は12日、鹿児島市の県看護研修センターで、ワーク・ライフ・バランス (WLB) 推進ワークショップの参加施設報告会を開いた。2012年から取り組んでいた5病院が3年間を終括、労働環境が改善した過程や今後の目標などの発表をした。

### 県看護協会事業 5病院が報告

鹿児島県看護協会 (平川涼子会長) は12日、鹿児島市の県看護研修センターで、ワーク・ライフ・バランス (WLB) 推進ワークショップの参加施設報告会を開いた。2012年から取り組んでいた5病院が3年間を終括、労働環境が改善した過程や今後の目標などの発表をした。

### ワーク・ライフ・バランス推進 労働環境に改善傾向

3年間の取り組みの成果を発表する各病院の担当者  
—鹿児島市の県看護研修センター—

WLBとは「仕事と生活の両立」。日本看護協会は「看護職の健康と安全が、患者の健康と安全を守る」との考えに立ち、WLB事業に取り組んでいる。5病院は超過勤務削減やノ一残業デー実施、看護ケアの不満足感解消などを目標に、経営者や医師、事務方とも協力して病院全体で取り組んできた。

クオラリハビリティエーション病院 (さつま町) は、14年の職員への調査で「定時で終わることが出来る」が、12年比で26・3%増の58・2%、「今の勤務先に長く働きたい」も17・3%増の64・1%などとなった。

川内市医師会立市民病院では、認定看護師取得への修学支援を7人が利用したことなどを報告した。今給黎総合病院、相良病院 (以上鹿児島市)、垂水中央病院も、看護師の働く環境や意欲向上など、改善傾向にあることを示した。

平川会長は「3年という短い期間ながら、いい結果が出てうれしい。今後の継続した取り組みに期待したい」と話した。

(久保浩一郎)

かごしま発



『ノ一残業デー』は  
ぺこちゃんのポスターで  
お知らせ♪  
(2階・3階・老健)

『WLB に対するアンケート結果』および『WLB 推進ワークショップ報告会で発表した  
パワーポイント』は「お知らせフォルダ」の「WLB 通信」に保存してありますのでご覧ください。